

心のバリアフリー等に関する取組について

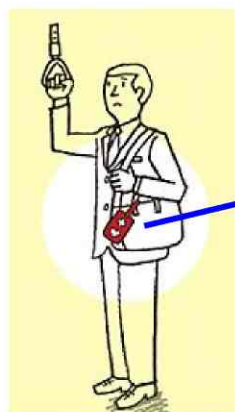
心のバリアフリーに係る取組①

ヘルプマークの配布・普及（平成28年4月から）

義足や人工関節を使用している方，内部障害や難病の方，妊娠初期の方など，援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方が援助を得やすくなるよう，京都府が西日本で初めて「ヘルプマーク」の配布を開始

【こういった方が配慮を必要としています】

- 外見からは分からなくても，疲れやすかったり，同じ姿勢を保つことが困難な方がいます。
- 交通機関の事故等の突発的な出来事に対して臨機応変に対応することが困難な方，立ち上がる，歩くといった動作が困難な方がいます。
- 視覚や聴覚に障害があり，状況把握が難しい方，自力での迅速な避難が困難な方などがいます。



地下鉄車内での
掲示事例

心のバリアフリーに係る取組②

【駅ホーム上における安全への取組】

平成28年度に引き続き、視覚に障害のある方の安全を守るため、利用者間の「声掛け」等に関する啓発活動を実施

平成29年度は河原町駅（阪急），京都駅（JR西日本），三条駅（京阪），四条駅（地下鉄）において取組を実施

この取組には京都ライトハウス，京都府視覚障害者協会，京都府盲導犬協会，京都府立盲学校，JR西日本，JR東海，阪急，京阪，近鉄，交通局，近畿運輸局，京都市等が参画



四条駅での啓発活動の様子

情報提供についての取組事例①（JR西日本の事例）



列車内等における文字による情報提供



ホームページによる車両走行位置等の情報提供

情報提供についての取組事例②（近畿日本鉄道の事例）

スマートフォンアプリ「近鉄アプリ」による運行情報の提供

【主な機能】

- **プッシュ通知**

アプリ登録路線に運転見合わせや遅れ等が発生した場合に通知
プッシュ通知からアプリ内の運行情報画面で運行状況、区間、事由を確認

- **列車走行位置**

14路線において、列車の在線状況を種別と遅れ時分とともに
駅もしくは駅間で表示

- **鉄道関係Webリンク**

ダイヤ案内，インターネット予約・発売，主要駅構内図など
鉄道利用に関するリンクを掲載



プッシュ通知



列車走行位置



鉄道関係Webリンク



情報提供についての取組事例③（京都市の事例）

やさしい日本語を活用した「分かりやすく 伝えるため」の手引き（仮称）
（平成30年3月作成予定）

「やさしい日本語」とは…

阪神・淡路大震災では、日本語も英語も十分に理解できず、必要な情報を受け取ることができないために被害を受けた外国人が多くいた。

そういった方々が災害発生時に適切な行動をとれるように考え出されたのが「やさしい日本語」である。

知的障害のある方や高齢者・子どもなどにも言葉の意味を分かりやすく伝える上で効果的であると考えられている。

「やさしい日本語」作成のルールの例

- 難しい言葉を避け，簡単な語彙を使う
- 1文を短く，分かち書き，文の構造は簡単に。
- 外来語に気を付ける。
- 漢字の使用量に注意し，漢字にはふりがなを付ける
- 二重否定の表現，あいまいな表現を避ける など

例えば…

事前の申込みが必要です。➡1月30日までに申し込んでください。

情報提供についての取組事例④

各種団体におけるバリアフリー情報の周知

各種団体においても、例えば、京都市ハンディマップ（京都市身体障害者団体連合会）や京都市内オストメイト対応トイレマップ（日本オストミー協会京都府支部）など、バリアフリー情報の取りまとめ、情報の周知を実施している。

また、ユニバーサルデザインマップ（京都光華女子大学）など、学校が実施主体となった取組も出てきている。

- 障害の特性に応じて、必要となる情報はさまざまであるため、各団体が持っている情報やノウハウを共有しながらバリアフリー情報の質を高めていく必要がある。
- 特に緊急時における情報提供の観点から、出先で、手軽に調べられることも重要となる。
- 最近では、スマートフォンで会話を文字に変換するといったアプリケーションが開発されるなど、技術も進歩してきており、今後、こういった新しい取組も合わせて、さらに移動しやすい環境が整うことが期待される。